

「第 20 回精神保健福祉士国家試験(専門科目)」の問題文および解答例

＜2018 年 2 月 3 日(土) 実施＞

(問題文:2018 年 2 月 4 日掲載)

(解答例:2018 年 2 月 5 日掲載)

区分	問題文 (第 20 回精神保健福祉士:専門科目)	やまだ塾の 解答例
精神疾患と その治療	問題 1 中枢神経とその機能に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 前頭葉では、空間や身体認知が行われる。 2 頭頂葉では、意欲や意志の統合が行われる。 3 側頭葉では、言語の理解が行われる。 4 辺縁系では、筋緊張の調整が行われる。 5 大脳基底核では、自律神経系の統合が行われる。	3
	問題 2 次のうち、気分障害よりも統合失調症が強く疑われる症状として、正しいものを1つ選びなさい。 1 考想化声 2 自殺念慮 3 罪業妄想 4 観念奔逸 5 思考制止	1
	問題 3 次のうち、アルコール依存症の離脱症状として、正しいものを1つ選びなさい。 1 過眠 2 徐脈 3 発疹 4 振戦 5 疼痛	4

	問題 4 患者の訴えと精神症状に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。 1 「ある時点から後のことを思い出せない」との訴えは、前向健忘である。 2 「壁に掛けた着物が人間に見える」との訴えは、幻覚である。 3 「頭の中に他人の考えを吹き込まれる」との訴えは、考想伝播である。 4 「不合理とは考えるが、否定すると不安になる」との訴えは、強迫観念である。 5 「人前では手が震えて字が書けなくなる」との訴えは、精神運動制止である。	14
	問題 5 次のうち、1日の中で症状が顕著に変動することが特徴である精神疾患として、正しいものを1つ選びなさい。 1 アルツハイマー型認知症 2 レビー小体型認知症 3 統合失調症 4 全般性不安障害 5 急性ストレス障害	2
	問題 6 次の記述のうち、患者と初めて面接を行うときの対応として、適切なものを1つ選びなさい。 1 患者よりも先に家族から話を聞く。 2 机を間にして真正面に向かい合って行う。 3 可能な限り専門用語を用いて面接記録を記載する。 4 できるだけ「閉じられた質問」で面接する。 5 情報を得ることよりも患者との信頼関係を築くことを重視する。	5
	問題 7 次のうち、認知症のスクリーニングに有用な心理検査として、適切なものを1つ選びなさい。 1 文章完成テスト 2 ロールシャッハテスト 3 MMP I (ミネソタ多面人格テスト) 4 ミニメンタルステート検査 5 ウェクスラー成人知能検査	4

	問題 8 次のうち、洞察的精神療法として、正しいものを1つ選びなさい。 1 芸術療法 2 行動療法 3 箱庭療法 4 自律訓練法 5 精神分析療法	5
	問題 9 次の記述のうち、精神科病院に入院中の者を隔離する場合の処遇の基準として、正しいものを1つ選びなさい。 1 隔離の理由は症状軽快後に説明する。 2 一つの隔離室への入室は二人までとする。 3 精神保健指定医以外の医師が隔離を行う場合は、12時間までの制限がある。 4 本人の意思により閉鎖的環境の部屋に入室させる場合も隔離である。 5 隔離室入室中、医療スタッフはできるだけ患者との会話を避ける。	3
	問題 10 「医療観察法」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 入院治療は矯正施設で行う。 2 対象者の社会復帰を目的とする。 3 対象行為に重大な自傷行為も含まれる。 4 対象者の入院等は、家庭裁判所で行われる審判で決定する。 5 入院中に行動制限を行うときは、家庭裁判所に報告しなければならない。 (注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。	2
精神保健の 課題と支援	問題 11 次のうち、国際生活機能分類(ICF)でいう心身機能の改善に焦点を当てたものとして、正しいものを1つ選びなさい。 1 幻聴を減らすための薬物療法 2 精神疾患について理解を深めるための心理教育 3 偏見を持たずに精神障害者を雇用する職場を増やす啓発活動 4 高次脳機能障害の人にも使い方が分かりやすい道具の開発研究 5 認知症の人が生活しやすいグループホームの在り方の研究	1

	問題 12 精神保健の三つの側面のうち、積極的精神保健の活動として、正しいものを1つ選びなさい。 1 精神医療を中断しがちな在宅精神疾患患者への訪問指導 2 在宅高齢者への適切な睡眠を確保するための睡眠衛生教育 3 うつ病のため休職した被雇用者への職場復帰支援 4 PTSDが疑われる被災者への精神科医療機関の紹介 5 自傷行為を繰り返す若者へのカウンセリング	2
	問題 13 がん患者の支援に関連する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 ホスピスは、がんで親を亡くした子どもに教育資金を貸与する仕組みである。 2 緩和ケアは、がんと診断された段階から必要とされている。 3 がんによる全人的苦痛は、身体的苦痛と精神的苦痛の二つで構成される。 4 QOLは、がん患者の生命予後を評価する指標である。 5 グリーフケアは、がん患者のADL向上を目的としている。	2
	問題 14 いじめ防止対策推進法に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。 1 学校外で生じた児童生徒同士のトラブルも、いじめに該当することがある。 2 背景にいじめが疑われる自殺が生じた場合の調査についての規定がある。 3 児童生徒から教員に対して向けられる暴力の防止についての規定がある。 4 学校長に対する罰則の規定がある。 5 インターネット上に書き込まれた悪口は、いじめの定義から除外されている。	12
	問題 15 次の記述のうち、労働者の精神保健の現状として、正しいものを1つ選びなさい。 1 セルフケアとは、各企業に義務づけられた精神保健に関する活動である。 2 公立学校教育職員の病気休職者のうち、精神疾患による休職者は1割未満である。 3 職場でのセクシュアルハラスメント被害による精神障害は、労働災害の認定基準の対象から除外されている。 4 年間自殺者数のうち、死亡時に被雇用者であった者はその半数以上を占めている。 5 過労死等防止対策推進法が規定する過労死等の原因には、精神障害が含まれる。	5

	問題 16 依存症対策における精神保健福祉士の支援に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。 1 治療については、自己コントロールが困難であるため、専門医療機関での入院治療を優先する。 2 「依存症は本人の意志の弱さに起因するものである」という理解を、広く普及することが求められている。 3 本人に治療意欲がなくても、過度に突き放すのではなく、治療意欲を高めるようにする。 4 精神医学的な知識や問題解決に向けた面接技術に加え、社会資源を活用又は開発し、調整することも必要とされる。 5 家族相談は、依存症者本人の同意を得てから開始する。	34
	問題 17 次のうち、精神保健福祉に関係する法律とその規定に関する組合せとして、正しいものを1つ選びなさい。 1 地域保健法 ————— 市町村保健センターの設置 2 医療法 ————— 自立支援医療費の支給 3 「精神保健福祉法」 ——— 精神保健参与員の配置 4 「医療観察法」 ————— 退院後生活環境相談員の活用 5 「障害者総合支援法」 —— 精神科救急医療の確保 (注) 1 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。 2 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。 3 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。	1
	問題 18 精神保健福祉活動を行っている民間団体に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 日本精神衛生会は、精神病患者慈善救済会として創設された。 2 日本いのちの電話連盟は、自殺対策基本法の成立を受けて創設された。 3 全日本断酒連盟は、依存症の治療に従事している多職種チームが中心となって創設された。 4 全国精神障害者団体連合会は、「障害者総合支援法」の成立を受けて創設された。 5 全国精神保健福祉連絡協議会は、精神保健福祉士の職能団体として創設された。	1

	問題 19 DALY (障害調整生命年)に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 平均寿命と健康寿命(日常生活に制限のない期間の平均)の差から求める。 2 疾患の有病率とジニ係数から求める。 3 患者と家族の疾患による経済的損失を合計して求める。 4 有病率と集団の調査対象者全員の数の積から求める。 5 疾患による損失生存年数と障害生存年数を合計して求める。	5
	問題 20 次の記述のうち、職場のメンタルヘルスに関して、正しいものを1つ選びなさい。 1 精神障害に係る労災請求件数は、過去30年間一貫して脳・心臓疾患に係る労災請求件数より多い。 2 「男女雇用機会均等法」では、妊娠中及び産後の女性の危険有害業務の就業制限を規定している。 3 「労働者の心の健康の保持増進のための指針」は、労働契約法に基づき定められたものである。 4 従業員支援プログラム(EAP)は、職場の管理監督者が、職場環境の改善や心の健康相談を実施するものである。 5 精神科デイ・ケアなどで提供されるリワークプログラムは、精神疾患で休職した労働者の職場復帰に向けた支援策である。 (注)「男女雇用機会均等法」とは、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律」のことである。	5
精神保健福祉相談援助の基盤	問題 21 次の記述のうち、精神保健福祉士法に規定されている精神保健福祉士の業務に関するものとして、正しいものを2つ選びなさい。 1 助言、指示、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行う。 2 資質向上のため、厚生労働省令で定められている研修の受講義務がある。 3 職を辞した後も、5年の秘密保持義務がある。 4 常にその者の立場に立って、誠実にその業務を行わなければならない。 5 精神保健福祉士の信用を傷つけるような行為をしてはならない。	45

	問題 22 次の記述のうち、国際ソーシャルワーカー連盟(I F S W)の倫理綱領の「倫理基準」に関するものとして、正しいものを1つ選びなさい。 1 専門職としての倫理責任として、秘密の保持が示されている。 2 利用者に対する倫理責任として、説明責任が示されている。 3 実践現場における倫理責任として、専門職の擁護が示されている。 4 社会に対する倫理責任として、業務改善の推進が示されている。 5 専門職としての倫理責任として、社会への働きかけが示されている。	2
	問題 23 次のうち、最も早く設立された社会福祉に関する職能団体として、正しいものを1つ選びなさい。 1 日本医療社会事業家協会(現 公益社団法人日本医療社会福祉協会) 2 日本介護福祉士会(現 公益社団法人日本介護福祉士会) 3 日本社会福祉士会(現 公益社団法人日本社会福祉士会) 4 日本精神医学ソーシャル・ワーカー協会 (現 公益社団法人日本精神保健福祉士協会) 5 日本ソーシャルワーカー協会 (現 特定非営利活動法人日本ソーシャルワーカー協会)	1
	問題 24 次の記述のうち、ソーシャルワークにおけるストレングスの説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。 1 年齢や障害の有無などにかかわらず、どの人にとっても当たり前の生活を実現できるよう、成熟した社会をつくることである。 2 主体性・連帯性・無償性に基づき、一人一人を大切な存在として認め合う社会をつくるために、自ら進んで行う行為を支えることである。 3 その人の問題に焦点を当てるのではなく、その人が本来持っている強さに着目し、それを引き出しいかしていくことである。 4 精神障害に対する誤解や偏見、差別に対して正しい知識を提供することで、適切な理解や態度、行動に変えていくことである。 5 人とその環境との関係に焦点を当て、環境や自分の生活をコントロールする力を高め、自ら主体的にその状況に働き掛け改善することである。	3

	問題 25 次の記述のうち、ソーシャルワーク理論とその代表的な人物として、正しいものを1つ選びなさい。 1 ホリス(Hollis, F.)は、人間に共通の欲求充足を権利として認めることを説いた。 2 マイヤー(Meyer, C.H.)は、人と状況の両者の相互作用を重要であるとして、状況の中にある人間を中心概念として位置づけた。 3 トール(Towle, C.)は、機関には、特定の社会サービスを実施する特定の機能があり、それを手段として用いることがソーシャルワーカーの独自性であるとした。 4 ジャーメイン(Germain, C.B.)は、システム理論に生態学的な視点を導入して、「有機体」と「環境」との相互作用に焦点を合わせた。 5 アプテカー(Aptekar, H.H.)は、生態的システム論的視点を提唱し、人と環境が相互に関連し合っている視点を重視した。	4
	問題 26 次の記述のうち、精神保健福祉士の行うマクロ領域のソーシャルワーク実践として、最も適切なものを1つ選びなさい。 1 退院後の地域生活定着を目指し、サービスの調整やサービス利用を支援する。 2 地域に出向き、サービスに結び付いていない精神障害者を発見する。 3 居住支援を通じて明らかになった政策的課題の解決に向けた提言を行う。 4 就労を希望する精神障害者に面接を行い、願いや今後の課題を明らかにする。 5 精神科デイケアで、相互作用を活用しながら個人の成長や課題解決を図る。	3
	問題 27 次の記述のうち、法に規定されている専門職の業務として、正しいものを1つ選びなさい。 1 社会復帰調整官は、医療観察制度による処遇決定を行う。 2 精神保健指定医は、措置入院の解除を判断するための診察を行う。 3 社会福祉主事は、生活保護の決定を行う。 4 精神保健福祉相談員は、精神障害者保健福祉手帳の交付に当たっての審査を行う。 5 介護福祉士は、介護保険の給付管理を行う。	2

	問題 28 N市にある精神科病院の相談室に勤務するA精神保健福祉士は、単身生活をしているBさんから、「もう病院には通えないよ。どうしよう」という相談を受けた。理由は、Bさんが通院に利用しているバス路線が廃止になることであった。病院デイケアのスタッフからも、バス路線廃止後のプログラム参加について、メンバーから不安が上がっていることを聞いた。また、外来患者以外にも、通学や買物に困る住民が多く、その対応を地域で話し合っているとのことだった。そこで、A精神保健福祉士は住民やメンバーと共に、通院や日常生活に支障が出ることをN市に訴え、路線の存続を求めた。 次のうち、A精神保健福祉士が行った権利擁護の活動として、正しいものを2つ選びなさい。 1 クラスアドボカシー 2 ケースアドボカシー 3 シチズンアドボカシー 4 セルフアドボカシー 5 リーガルアドボカシー	13
	問題 29 病院で、新たに就労支援を目的としたデイケアを立ち上げることとなった。C精神保健福祉士を主任とし、就労支援に関わる新たなスタッフが決まり、立ち上げのための会議を開いた。初めに、それぞれが情報共有を行い、次の段階では、ゴール設定とそれに伴う役割を確認し、SSTを中心としたプログラムが開始された。しかし、初回のプログラムが終了した際に、D看護師から、「この就労支援のSSTでは、就労場面での練習より先に生活面の改善から始めた方がよい。練習課題の設定について会議を開いてほしい」と要望があった。これを受けて、C精神保健福祉士は会議を開催することとした。 次のうち、この時点のチームビルディングの段階として、適切なものを1つ選びなさい。 1 形成段階 2 対立段階 3 規範形成段階 4 実践段階 5 離脱段階	2

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 1)	(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 1) 次の事例を読んで、問題 30 から問題 32 までについて答えなさい。 〔事 例〕 E 養護教諭は、F さん(中学 1 年生、女性)から、入学当初より自傷行為についての相談を受けていた。ある日、F さんから、「同級生たちからひどい言葉を浴びせられる。自分の性別のせいだ」と話をされた。性別への違和感の訴えは初めてで、これまでの相談の様子と異なることに気付いた E 養護教諭は、性自認に課題がある人への支援経験が豊富な、スクールソーシャルワーカーの G さん(精神保健福祉士)に会ってみることを F さんに勧めた。F さんの了解が得られたことから、E 養護教諭は G さんに相談の予約をした。約束した日に、緊張した面持ちの F さんは、G さんの下を訪れた。自己紹介の後、世間話をして、F さんの緊張も解けた頃、G さんが語りかけた。(問題 30) F さんは長い沈黙の後、「自分の性別に違和感があり、そのことをただ一人の親友に言ってみたが、それ以後、親友の態度がよそよそしくなってしまった」と話し始めた。さらに、「このままだと居場所がない」、「性別によって押しつけられた役割には納得がいかない」と続け、これからは男性として生活をしたいという願いを語った。そして、「家族は気が付いていると思うが、きちんと話をしてみたい」と述べる一方で、「学校では、一人ぼっちでつらい」と話した。肩を落とし涙ぐむ F さんに、G さんは、「親友にあなたのことを分かってもらい、今までどおり接してほしいのですね」と伝えた。(問題 31) 後日、G さんは、家族同伴面接を行い、自分の性別の違和感について理解してほしいという F さんの気持ちを家族に伝え、専門の医療機関の受診を勧めた。その後、性同一性障害(疑い)と診断を受け、カウンセリングが開始されることになった。 しばらくして、F さんと家族から学級担任に、F さんが自認する性で生活をしてみたいという申出があり、G さんの協力の下、E 養護教諭を中心に支援チームが作られ、修学を継続する環境調整が始まることになった。(問題 32) 問題 30 次の記述のうち、G さんが F さんに対して語りかけた言葉として、適切なものを 2 つ選びなさい。 1 「友人関係で悩んできたと聞いています。よろしければ少しお話ししてくれますか」 2 「自傷行為のことは聞いています。病院探しの手伝いをします」 3 「一緒に問題を解決します。何でも困っていることを話してください」 4 「相談の秘密は守ります。安心して話してください」 5 「私にはできないこともあります。そのときは、他に相談できる人を探してみます」
-------------------------------	---

	問題 31 次のうち、Gさんが用いた技法として、最も適切なものを1つ選びなさい。 1 開かれた質問 2 リフレーミング 3 自己開示 4 言い換え 5 感情の反映	5
	問題 32 次の記述のうち、この時点で支援チームが行うこととして、最も適切なものを1つ選びなさい。 1 相談窓口をGさんに一本化する。 2 ホームルームでLGBTの学習会を行う。 3 Fさんの学校への具体的な要望について考える。 4 性別に違和感を持つ生徒がいないか調査する。 5 戸籍上の性別変更を行う方法について調べる。 (注) LGBTとは、(Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender)の頭字語である。	3

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 2)	(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 2) 次の事例を読んで、問題 33 から問題 35 までについて答えなさい。 〔事 例〕 H さん(22 歳, 精神保健福祉士)は大学を卒業し, 4 月から精神科病院に勤務している。就職後 3 か月間, 各病棟での研修と各職種からの説明を受けることによって, 病棟機能とその役割, 各職種の業務を知り, 病院組織についての理解が進んだ。その後, 相談室主任である J さん(42 歳, 精神保健福祉士)担当の病棟に配属され, 分からないことがあると尋ねることができ, 少しずつではあるが業務が行えるようになってきた。(問題 33) 半年が経過し, 相談業務を自分なりにできると感じ始めていた H さんは, ある日, 担当している K さん(48 歳, 統合失調症)と退院後の生活について面接をした。しかし, その面接で K さんを怒らせてしまい, そのことを J さんに相談した。 J さんからは, K さんとの面接をどのように進めてきたか尋ねられた。H さんは K さんが失敗しないために, 本人に適していると考えたサービスを利用するように説得しようとしたと話した。それを聞いた J さんは, H さんが精神保健福祉士として専門的な動きができていないと感じ, スーパービジョンへの参加を提案した。H さんがスーパービジョンに参加すると, 固定的なスーパーバイザーを置かず, 数名の精神保健福祉士がスーパーバイザーとスーパーバイジーの両方の役割を行いながら, 精神保健福祉士が持つべき支援の視点や, 精神保健福祉士としての価値について意見を出し合い検討されていた。(問題 34) スーパービジョンの参加者が, 職能団体主催の様々な研修を受講していることを知った H さんは, それまで積極的にはなれなかった研修会への参加を考えるようになった。実際に参加してみると, 様々な領域で働く精神保健福祉士の話を聞くことができ, 新たな知見も広がった。その後も, 開催される研修会に積極的に参加した H さんは, ある日, K さんとの面接が終わった帰り際に, 「しっかり話を聞いてもらえてよかった」と声を掛けられた。その言葉を聞き, 研修に参加し, 学び続けることの重要性を改めて認識した。(問題 35)
-------------------------------	---

	問題 33 次のうち、Hさんの成長を促したものを表す用語(略語)として、正しいものを1つ選びなさい。 1 I P E 2 C B T 3 I M R 4 F P E 5 O J T	
	問題 34 次のうち、Hさんが参加したスーパービジョンとして、正しいものを1つ選びなさい。 1 ピアスーパービジョン 2 ライブスーパービジョン 3 個人スーパービジョン 4 グループスーパービジョン 5 セルフスーパービジョン	1
	問題 35 次のうち、この時、Hさんが改めて認識した国際ソーシャルワーカー連盟(I F S W)の倫理綱領に規定されているソーシャルワーカーの責務として、最も適切なものを1つ選びなさい。 1 調査・研究 2 専門性の向上 3 教育・訓練・管理 4 社会的信用の保持 5 専門職の擁護	2
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	問題 36 諸外国の精神保健福祉に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 韓国では、入院医療・入所施設中心から地域ケア中心に転換したことにより、精神療養施設を廃止した。 2 イタリアでは、ケアプログラムアプローチ(C P A)により、精神障害者への医療サービスと福祉サービスを計画している。 3 イギリスでは、法律 180 号(1978 年)制定後、単科精神病院への新規入院を禁じた。 4 アメリカでは、入院回避のためのショートステイ施設として、ベンチャー(Venture)を用いている。 5 カナダでは、政府が発表した『闇からの脱出』の中で、精神障害者を中心に位置づけたリカバリーシステムを目指すこととした。	5

	問題 37 次の記述のうち、我が国の精神保健福祉に関するものとして、正しいものを1つ選びなさい。 1 谷中輝雄が提唱した「ごく当たり前の生活」の実現とは、他の人々と同様の生活を実現することである。 2 「札幌宣言」では、精神科ソーシャルワーカーの実践目標として精神障害者の社会的復権を掲げた。 3 精神保健福祉士は、精神障害者の人権と福祉の増進を図る専門職として、1995年(平成7年)の「精神保健福祉法」に規定された。 4 1980年代以降の実践に影響を与えた「生活モデル」は、病理・診断・治療の視点を重視している。 5 「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」による地域生活支援体制の強化では、支援者の意向に即したサービスの利用が求められている。 (注) 1 「札幌宣言」とは、日本精神医学ソーシャル・ワーカー協会が1982年(昭和57年)に出した宣言のことである。 2 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。 3 「精神保健医療福祉の更なる改革に向けて」とは、2009年(平成21年)9月に取りまとめられた「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会報告書」(厚生労働省)として公表されたものである。	2
	問題 38 精神科リハビリテーションの原則に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 発病前の状態に戻すことを到達点とする。 2 回復期への移行とともに速やかに開始する。 3 特定の技法やプログラムを基本とする。 4 個人の社会生活技能の改善と環境面での支援開発を行う。 5 障害支援区分を基準に実施する。	4
	問題 39 次の記述のうち、就労移行支援事業所が行う職業リハビリテーションのプロセスにおけるインターベンションとして、正しいものを1つ選びなさい。 1 利用者と関係諸機関で話し合い、新たに職場適応援助者制度の利用を決めた。 2 利用者の職場実習の前に当該事業所で職場体験を行い、仕事内容等を整理した。 3 就職を希望する利用者に同行し、ハローワークで求職登録を支援した。 4 就職が決まった利用者と、それまでの支援内容について検討した。 5 初めて来所した利用者に対して事業所の支援内容を説明した。	2

	問題 40 次のうち、支援過程においてジェノグラムを作成する目的として、最も適切なものを1つ選びなさい。 1 家族や親族の関係や世代間関係の把握 2 家族の各成員間の情緒的結び付きや力関係などの状況の把握 3 家族や家族を取り巻く人々と諸機関との関係の把握 4 家族の個々人が所属する集団の人間関係や構造の把握 5 家族の職業や生活歴及び病歴などの個人情報把握	1
	問題 41 精神保健福祉士が用いる面接技法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 励ましとは、相手のはっきりしない考えを、適切に理解して応答することである。 2 要約とは、相手が気付かずにいる自身の感情を、汲み取って言語化して返すことである。 3 支持とは、相手の感情を、そのまま認めて受容したことを表明することである。 4 繰り返しとは、相手の話した内容の矛盾点を、見定めて指摘することである。 5 相づちとは、相手の話の中から、一部の言葉を相手の言ったとおり伝えることである。	3
	問題 42 精神科病院の医療相談室に勤務しているL精神保健福祉士の下に、P市に住むMさんが相談に訪れた。「同居している30歳の弟が3か月前から家に引き籠り、私には見えない誰かと対話し、興奮して壁を蹴るなどの行動がある。入院が必要ではないかと思うが、弟はどうしても受診に同意しない」という。Mさんの父は既に亡くなっている。母は認知症に罹患し、現在司法書士が保佐人に選任されている。Mさんには弟の他、成人した妹が一人いるという。L精神保健福祉士は、受診方法や様々な入院形態について、Mさんに説明した。 次の記述のうち、L精神保健福祉士がMさんに行った説明の中で、弟が医療保護入院になった場合についての説明として、適切なものを1つ選びなさい。 1 「Mさんが同意者となる場合、家庭裁判所による選任を受ける必要があります」 2 「Mさんの母の保佐人は、同意者となることができます」 3 「移送制度を使って医療保護入院する場合、市長が同意者になります」 4 「Mさんは、同意者とならなくても精神医療審査会に退院請求できます」 5 「同意者が自立支援医療を申請することで、医療費を軽減できます」 (注) 同意者とは、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(第33条)における医療保護入院の同意を行う家族等のことである。	4

	問題 43 次の機関における地域移行・地域定着支援に関わる専門職の支援として、正しいものを2つ選びなさい。 1 精神科病院では、地域移行に向けて個別事例のケア会議の開催を調整する。 2 指定特定相談支援事業所では、地域移行のための外出時の同行支援を行う。 3 基幹相談支援センターでは、地域の体制整備に係るコーディネーターの役割を担う。 4 指定一般相談支援事業所では、介護給付のための障害支援区分の認定を行う。 5 救護施設では、地域生活支援のためのサービス等利用計画を作成する。	13
	問題 44 次の記述のうち、精神障害者の生活ニーズに対応したサービスの活用の在り方として、適切なものを1つ選びなさい。 1 保証人がいないために一般住宅への入居が困難な障害者に対し、日常生活自立支援事業を活用する。 2 住居の確保や地域における生活に移行するための支援が必要な障害者に対し、移動支援事業を活用する。 3 食事や入浴などの支援が必要な障害者に対し、住宅入居等支援事業を活用する。 4 余暇活動等の社会参加のための外出の支援が必要な障害者に対し、地域移行支援を活用する。 5 常時の連絡体制が必要であり、障害の特性に起因して生じた緊急の事態などへの対応が必要な障害者に対し、地域定着支援を活用する。	5
	問題 45 次のうち、主として薬物依存症者の家族・友人のセルフヘルプグループとして、正しいものを1つ選びなさい。 1 イモーションズ・アノニマス(EA) 2 ナラノン(Nar-Anon) 3 セクサホーリクス・アノニマス(SA) 4 アルコホーリクス・アノニマス(AA) 5 アラノン(Al-Anon)	2
	問題 46 次のうち、障害者の地域生活を支援するために、個別のニーズと複数のサービスを結び付ける方法として、適切なものを1つ選びなさい。 1 グループワーク 2 ケアマネジメント 3 コミュニティワーク 4 ソーシャルアクション 5 ソーシャルアドミニストレーション	2

	問題 47 Aさんは、うつ病で3か月前に入院し、近々退院することになっている。同病院に勤務するB精神保健福祉士は、Aさんと面接を行い、入院中の治療経過を振り返った。Aさんは入院中の様々な取組から、退院後の自宅生活における生活習慣を身につけられたことについては満足していた。他方で、「入院当初の治療プログラムが自分に合っていたのか気になっている。もう少し早く退院したかった」などと述べた。B精神保健福祉士は、Aさんにどのような支援があればよかったのかを尋ねるとともに、今後の業務にいかしていきたいと話した。 次のうち、B精神保健福祉士のAさんへの支援過程におけるこの面接の位置づけとして、正しいものを1つ選びなさい。 1 プランニング 2 インターベンション 3 モニタリング 4 エバリュエーション 5 ターミネーション	4
	問題 48 Cさん(34歳、女性)は、20歳代後半に、うつ病で入院したことがある。結婚を機に退職し、その後、妊娠したが、つわりもひどく、うつ状態になっていた。授乳中の服薬調整も考え、精神科のある総合病院で出産することにした。その後、無事出産し、間もなく自宅に戻る予定となった。夫は、5年間の契約社員として一昨年から勤務している。退院後は、数日のみ、遠方に住むCさんの実母が手伝ってくれることになっている。今後の子育てと体調のことが不安になったCさんは、過去の治療歴も含めて、精神科外来のD精神保健福祉士に相談した。 次の記述のうち、このときのCさんに対する、D精神保健福祉士が行う支援として、適切なものを2つ選びなさい。 1 不安が解消するまで精神科病棟へ入院し治療を受ける。 2 Cさんの住む市が実施している養育支援訪問事業を活用する。 3 契約社員であっても、夫が育児休業の申出ができると知らせる。 4 子育てのサポートになる育児ボランティアを養成する。 5 子どもを児童養護施設に預かってもらえるようにする。	23

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題1)	(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題1) 次の事例を読んで、問題49から問題51までについて答えなさい。 〔事例〕 Eさん(24歳、男性)は、就学前に医療機関でアスペルガー症候群(当時)と診断された。Eさんには、環境の変化への対応困難や相手の意図を理解できないことからくる混乱などがみられたが、高等学校までは、学級担任などの理解と丁寧な指導によって、何とか卒業できた。Eさんは、父親と同じコンピューターソフトを扱う仕事に興味を示し、志望大学に入学した。しかし、入学後1週間通ったところで、「履修計画を立てられない」、「自分が座りたい席に座れない」などの理由で、通学したくないと言い出した。以前診断を受けた医療機関が遠方であったため、母親はEさんを伴って、精神保健福祉センターに勤務するF精神保健福祉士の下を訪れた。F精神保健福祉士は二人の話を詳しく聞いた後、ある提案を行った。(問題49) その2か月後、母親から、「お陰でEが大学に行っている」と電話があった。しかし、母親によれば、Eさんは、元々好きだったインターネットゲームに最近ますます興じるようになり、夜更かしする結果、午前中の授業に出られないことがあるという。「注意しても聞かないし、このままでは心配」との話を聞いたF精神保健福祉士は、精神保健福祉センターの事業として立ち上げた、発達障害児・者の家族サポートグループを案内し、会の内容について説明した。(問題50) Eさん自身も、時折、F精神保健福祉士の下を訪れ、「授業で発言したら笑われた」、「レポートをどう書いたらいいかわからない」など、大学で起こったことを相談していた。他の関係者からも適宜助言が行われた結果、Eさんは4年生に進級し、何とか卒業に必要な単位を取得する見込みが立った。しかし、Eさんは、「今の状態ではどこに就職しても長く働ける自信がない」、「卒業後少し訓練や経験を積んで、障害を開示せずに働ける仕事に就くことが自分の希望」と述べた。F精神保健福祉士は、Eさんの希望に沿う形で卒業後の進路について助言を行った。(問題51) Eさんは、F精神保健福祉士の助言を参考に進路を選択し、最終的に自分に合う仕事に就くことができた。
----------------------------------	---

	問題 49 次の記述のうち、F 精神保健福祉士がEさんと母親に対して提案した内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。 1 「医療機関に問い合わせ、処方を検討してもらうよう依頼してみます」 2 「参加できそうな当事者グループを探して、Eさんに紹介します」 3 「市の障害福祉の担当者と相談して、受けるべき合理的配慮の内容をお伝えします」 4 「大学の学習支援の担当者に連絡して、学内での支援体制について確認してみます」 5 「父親にも声を掛け、Eさんの学習意欲を高めるための話し合いをもちましょう」	
	問題 50 次の記述のうち、F 精神保健福祉士が説明したものとして、適切なものを1つ選びなさい。 1 「この会では、参加者相互の連絡用に名簿を作成しています」 2 「この会では、相互批判の精神が大切ですので積極的に発言してください」 3 「この会の企画や運営は、参加者同士で行ってください」 4 「この会での他の参加者の発言内容は、口外しないでください」 5 「この会に参加後、経験の浅い家族の相談に乗る立場になってください」	4
	問題 51 次のうち、この時点でF 精神保健福祉士が紹介した事業所や機関として、適切なものを2つ選びなさい。 1 就労移行支援事業所 2 就労継続支援B型事業所 3 特例子会社 4 地域活動支援センター 5 地域若者サポートステーション	15

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題2)	(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題2) 次の事例を読んで、問題 52 から問題 54 までについて答えなさい。 〔事 例〕 大手の情報通信産業企業である U 社は、障害者法定雇用率の引上げに対応するため、総務部に社員サポート室を新設することにした。G さん(精神保健福祉士)は、大学卒業後に障害者雇用支援機関で 10 年間勤務した後、U 社に入職した。主な担当業務は、障害者の雇用と雇用管理、社員のメンタルヘルス支援である。 入職して 4 か月後、制作部門の H 課長が、部下でプログラム開発作業に従事している J さん(35 歳、男性)のことで相談に来た。H 課長は、「J さんは 1 年前に交通事故に遭って入院し、4 か月で仕事に復帰した。ところが、復帰後はパターン化した仕事でなければミスばかりして、指示された内容もよく忘れる。仕事に集中できず、意欲も減退している。診断書には、高次脳機能障害による注意障害と記憶障害があり、これ以上の改善は難しいと記載されていると聞いている。社員サポート部門が新設されたと聞いたので、相談に乗ってほしい」と話した。話を聞いた G さんは、J さんとインテーク面接を行った後に、アセスメントとして、最初に機能評価を行った。(問題 52) そして、全てのアセスメント結果から、J さんに対する支援計画案を作成した。(問題 53) さらに、G さんは、支援計画案を基に J さんとその家族、H 課長と話し合い、支援計画を策定した。その後、G さんを中心とした会社の支援もあり、J さんは仕事を継続できている。時に、周りの社員と折り合えずに不適應を起こすこともあるが、その都度、G さんが相談に乗り、解決している。 その後、社内で、精神障害について理解を深めたいという声が上がったことから、G さんは、社員を対象とした研修会の開催、精神障害の特徴と合理的配慮事項を記したパンフレットの作成配布など、精神障害者の雇用管理に向けて活動している。 これらの活動が評価され、G さんは、自社の障害者実雇用率をさらに高め、職場定着も図るよう会社から指示を受けた。そして、G さんは、実現に向けて活動を開始した。(問題 54) 問題 52 次の記述のうち、この時点で G さんが行ったこととして、適切なものを 1 つ選びなさい。 1 J さんの仕事のサポートを行う社員の採用を検討する。 2 厚生労働省の教育訓練給付制度について調べる。 3 同じ部署の社員に、J さんに対してできそうな支援内容を聞く。 4 J さんの家庭での状況について、家族に記録してもらう。 5 制作部門に出向き、J さんの職務遂行状況を把握する。
----------------------------------	--

	問題 53 この時点でGさんがまとめた支援計画案に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。 1 地域障害者職業センターのリワーク支援利用に向けて活動する。 2 Jさんの職務内容を単純なデータ入力とし、勤務時間の短縮に向けて調整する。 3 作業場面に付き添い、ミスがなくなるようJさんに働き掛ける。 4 給与所得を補償するために、障害年金の取得に向けて支援する。 5 会社からの支援が得やすくなるため、精神障害者保健福祉手帳の取得を勧める。	5
	問題 54 この時点でのGさんの活動に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。 1 会社独自の雇用率を設定し、労使間で承認してもらうよう働き掛ける。 2 障害者用に一律に減額した給与表を作成し、雇用機会の拡大を図る。 3 精神障害のある社員の協力を得て、精神障害者保健福祉手帳の有無を管理する。 4 社内の主な職務について、各部署の社員と一緒に難易度を調査する。 5 障害のない社員を対象に、元気回復行動プラン(WRAP)のプログラムを実施する。	34

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題3)	(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題3) 次の事例を読んで、問題 55 から問題 57 までについて答えなさい。 〔事 例〕 K さん(77 歳、男性)は、小学校の校長を定年まで務めた。退職後は地域での活動を積極的に行い、1 年ほど前まで民生委員も務めていた。妻の話では、民生委員を引退してからは、外出や人と接することが少なくなった。特に、3 か月ほど前からは、時々食事をしたことを忘れていたり、県外に住む長男家族が帰省した時も、孫の名前を何度も聞いていたと言う。心配した妻は、K さんが高血圧のために定期通院をしている内科クリニックに相談をした。そうしたところ、主治医から認知症疾患医療センター(以下「センター」という。)を紹介され、まずは、妻が電話をすることにした。 センターでは、L 精神保健福祉士が電話を受け、妻に日常生活において感じていることなどを聞いた。妻は、K さんが食事をしたことを忘れていたり、孫の名前が出てこないことなどを話した。(問題 55) 傍らで聞いていた K さんは、妻が、「認知症ですか」などと発言したことに怒り始め、「そんなことはない」と大きな声で否定した。L 精神保健福祉士は、妻に K さんのセンターへの受診を勧めた。しかし、K さんは頑^{かたく}なに拒み、センターの利用には至らなかった。 2 か月が経過した頃、民生委員の後輩の M さんが、民生委員・児童委員協議会の公開シンポジウムに K さんを誘い、一緒に行くことになった。そこで、同年代の認知症の人がシンポジストとして話をするのを聞き、K さんは、「認知症になってもあれだけの話ができるんだ」と感心した。これが契機となり、K さんはセンターの受診を受け入れた。二日後にセンターを訪れた K さんと妻は、L 精神保健福祉士の面接を受けた。(問題 56) その後、K さんは各種の臨床検査や心理テストを受け、診察の結果、初期の認知症と診断された。K さんは診察の中で、たとえ認知症であっても地域の中で活動してみたいと言い、再び L 精神保健福祉士に今後のことについて相談をした。(問題 57) 問題 55 次のうち、L 精神保健福祉士が電話を受けた時点での認知症疾患医療センターの役割として、適切なものを 1 つ選びなさい。 1 鑑別診断とそれに基づく初期対応 2 身体合併症と周辺症状の対応 3 認知症に関する疾病教育 4 救急・急性期対応 5 専門医療相談
----------------------------------	--

	問題 56 次の記述のうち、L 精神保健福祉士が行った面接の内容として、適切なものを1つ選びなさい。 1 同じような問題を抱える人たちのグループ活動を紹介する。 2 楽しかった思い出や、うれしかった出来事を整理する。 3 認知症であることを伝え、服薬を指導する。 4 不安や緊張を受け止めて今の思いや、悩みの内容を把握する。 5 長期目標、中期目標、短期目標を考えて提案する。	4
	問題 57 次のうち、この場面でL 精神保健福祉士が提案したこととして、最も適切なものを1つ選びなさい。 1 認知症家族会の運営 2 民生委員への再就任 3 デイサービスの利用 4 孫の世話 5 当事者活動への参加	5

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題4)	(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題4) 次の事例を読んで、問題58から問題60までについて答えなさい。 〔事例〕 Aさん(40歳、女性)は、18歳で統合失調症を発症し、入院経験がある。受診は継続し、時々対人緊張が強くなったり幻聴体験はあるが、自分で対応できている。夫が代表の農業法人に勤め、子ども(7歳)がいる。 Bさん(45歳、女性、精神保健福祉士)は、以前、Aさんの受診先の精神科病院に勤務し、初診時からの担当であった。5年前に退職し精神保健福祉士事務所を開業、スクールソーシャルワーカーとしても勤務している。 Bさんの退職後、AさんとBさんは、それぞれの子育ての悩みを話し合ったことをきっかけに、時々会って話をする関係を続けていた。その後、地域で子育てサークルを始め、今ではメンバーが増え、子どもたち向けの活動も行うようになり、Aさんは会長、Bさんは事務局長として会を運営している。 ある日、勤務している学校で、精神障害のある母親(Cさん)と行動障害があるその子どもへの支援を検討する中で、この子育てサークルの活用が提案された。それを受けてBさんはCさんに、「親子の情報を事前に会のメンバーに知らせ、理解してもらった方がよい」と提案したが、Cさんは、「参加したいが病気や障害のことは知られたくない」と訴えたため、Bさんは、倫理的ジレンマを感じながらもサークルでの支援を進めた。(問題58) 初回参加時のその子の落ち着かない言動とCさんの子どもへの対応に、会のメンバーからは、「一緒にやっていくのは無理」という声が多く上がった。Bさんは、Cさん親子と会のメンバー両者の利益を視野に入れながら話し合いを重ねた。Aさんの体験談もメンバーに大きな影響を与え、最終的にメンバー全員の了承が得られた。(問題59) これを契機に、メンバーの福祉課題への関心が高まり、新しい活動を展開するためにNPO法人の設立を模索することになった。ある日の打合わせ後に、Aさんは、「20歳の頃は人生を諦めていた。病気の経験が人の役に立つなんて思っていなかった。病気のことは心配だし、どこかに引け目はあるけれど、家族、友人、仕事があるし、新しい活動が楽しみ」と語った。(問題60)
----------------------------------	--

	問題 58 次のうち、この時のBさん(精神保健福祉士)が感じた倫理的ジレンマの内容として、適切なものを1つ選びなさい。 1 記録の開示とクライアントの利益に対する責任 2 自己決定の尊重とクライアント保護の責任 3 守秘義務と制度や法律に対する責任 4 クライアントに対する責任と所属組織に対する責任 5 同僚に対する責任と専門性への責任	
	問題 59 次のうち、この話合いを通じてBさん(精神保健福祉士)が子育てサークルに果たした役割として、適切なものを1つ選びなさい。 1 アドボケーター 2 ケースマネジャー 3 メディエーター 4 イネイブラー 5 エバリュエーター	3
	問題 60 次の記述のうち、Aさんが語ったことの意味として、最も適切なものを1つ選びなさい。 1 これまでの人生で失った機能の回復を追い求める。 2 客観的な基準に基づいて自分を評価する。 3 専門家によって支えられた暮らしを楽しむ。 4 疾病や障害から脱却した人生を送る。 5 自分で自分の人生のストーリーを捉え直す。	5
精神保健福祉に関する制度とサービス	問題 61 医療保護入院に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 入院届は30日以内に届け出なければならない。 2 特定医師による入院は24時間に限り行うことができる。 3 定期病状報告は12か月ごとに行わなければならない。 4 地域生活移行を促進するため、退院支援相談員を選任する。 5 退院届は市町村長を経て都道府県知事に届け出る。	3

	問題 62 精神医療審査会に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 市町村に設置が義務づけられている。 2 委員に精神障害当事者を含むことが義務づけられている。 3 自立支援医療(精神通院医療)の支給認定を行う。 4 精神障害者保健福祉手帳の交付決定を行う。 5 処遇改善請求に関する審査を行う。	5
	問題 63 「障害者総合支援法」に定める地域定着支援に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 居宅において生活する障害者が対象となる。 2 訓練等給付に位置づけられている。 3 計画相談支援に位置づけられている。 4 退院先の確保に向けた外出への同行支援を行う。 5 医療機関で機能訓練及び日常生活の世話をを行う。 (注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。	1
	問題 64 障害年金制度に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 障害基礎年金の等級は、1級から3級の3区分である。 2 障害基礎年金は、特別障害給付金と同時に受給できる。 3 1級の障害基礎年金額は、2級の障害基礎年金額の2倍である。 4 精神の障害に係る等級判定ガイドラインが示されている。 5 発達障害は、国民年金・厚生年金保険障害認定基準による認定の対象外である。	4
	問題 65 精神保健福祉センターに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 援護、育成、更生の業務を行う。 2 住居のない精神障害者の一時保護所を併設することとしている。 3 精神保健福祉に関する知識の普及、及び調査研究を行う。 4 精神上著しい障害のある人を入所させ、生活扶助を行う。 5 精神保健福祉サービスに関する運営適正化委員会を設置している。	3

	問題 66 更生保護の担い手に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 更生保護施設は、自立に向けた就労支援を行っている。 2 地域生活定着支援センターは、刑務所出所後の帰住先のない高齢者や障害者を対象とした入所施設である。 3 更生保護女性会は、刑務所出所者に無料の職業紹介を行う団体である。 4 BBS会は、高齢の刑務所出所者を支援する団体である。 5 保護司は、総務大臣により委嘱される。	1
	問題 67 保護観察所に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。 1 市町村に1か所設置されている。 2 業務に恩赦の上申が含まれている。 3 厚生労働省により設置されている。 4 業務に犯罪予防活動が含まれている。 5 精神保健参与員が配置されている。	24
	問題 68 社会復帰調整官に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。 1 当初審判の申立てを、地方裁判所に行う。 2 当初審判中の対象者に対して、付添人として権利を擁護する。 3 合議体の構成員として、審判に関与する。 4 入院処遇中の対象者について、入院継続の確認申立てを行う。 5 通院処遇中の対象者に対して、精神保健観察を行う。	5
	問題 69 Q市の障害福祉課は、障害福祉計画の作成に当たり精神保健福祉に関する住民の意識を把握するため、市民3,000名に対して郵送自記式の質問紙調査を行った。調査の対象者は、100ある選挙の投票区のうちから無作為に30区を選び、次に、30の投票区における住民基本台帳から100人ずつを無作為に選んだ。この調査結果では、心の健康について、市民の関心の高さが明らかになった。 次のうち、この調査で使われた社会調査の手法として、正しいものを1つ選びなさい。 1 無作為化比較試験(RCT: Randomized Controlled Trial) 2 多段抽出法 3 ミックス法 4 縦断調査 5 シングルシステムデザイン	2

精神保健福祉に関する制度とサービス・事例問題	(精神保健福祉に関する制度とサービス・事例問題) 次の事例を読んで、問題 70 から問題 72 までについて答えなさい。 〔事 例〕 D さん(52 歳、男性)は、高校卒業後に地元の印刷会社に就職したが、20 歳代前半に、統合失調症を発症したことを契機に退職し、以後は入退院を繰り返していた。自宅では両親と三人で生活していた。5 年前に父親を肺がんで亡くし、それからは、年老いた母親との二人暮らしが続いている。D さんに、きょうだいはいない。 現在の D さんは、通院以外は自宅に籠りがちであるが、調子が良いときには、近所の図書館まで出掛けて読書をすることがある。これまで、75 歳になる母親が D さんの身の回りの世話をしてきたが、先月、風呂場で転んでから歩行が不自由になり、家事をこなすことが難しくなってきた。母親の状態を見兼ねた D さんは、自ら家事をしたり、時には母親の入浴を手伝ったりするようになった。 最近、町内に住む E さんが、D さんと母親の生活の様子を気にかけて、時々家を訪れて声を掛けてくれるようになった。E さんは、厚生労働大臣から委嘱されて、住民の立場に立って、相談に応じ助言を行う人である。D さんが母親の介護で疲れないか心配し、何らかのサービスを利用してみてはどうかと声を掛けてくれた。(問題 70) そこで D さんは、通院先の精神科病院の F 精神保健福祉士に、E さんから母親のサービス利用について声を掛けられたことを話し、どこに相談すればよいか尋ねた。相談を受けた F 精神保健福祉士は、介護保険法に規定される相談窓口となる機関を D さんに紹介することにした。(問題 71) その後、D さんは、母親のサービス利用をきっかけに、「自分も何かサービスを利用して、家の外に出る機会を増やしたい。何かやってみたい」と F 精神保健福祉士に相談するようになった。D さんの希望を聞いた F 精神保健福祉士は、まずは、D さん宅から歩いて行ける距離にある、市町村地域生活支援事業で創作的活動を行っている機関の利用を勧めてみた。(問題 72) 問題 70 次のうち、E さんの立場として、適切なものを 1 つ選びなさい。 1 認知症サポーター 2 福祉活動専門員 3 精神保健福祉相談員 4 民生委員 5 行政相談委員
-------------------------------	--

	問題 71 次のうち、F 精神保健福祉士がDさんに紹介した相談窓口となる機関として、適切なものを1つ選びなさい。 1 市町村保健センター 2 地域包括支援センター 3 認知症疾患医療センター 4 基幹相談支援センター 5 老人デイサービスセンター	2
	問題 72 次のうち、F 精神保健福祉士がDさんに利用を勧めた機関として、適切なものを1つ選びなさい。 1 就労継続支援A型事業所 2 就労継続支援B型事業所 3 地域活動支援センター 4 地域障害者職業センター 5 障害者就業・生活支援センター	3
精神障害者の生活支援システム	問題 73 次のうち、障害者の定義に「社会的障壁」が含まれている法律として、正しいものを2つ選びなさい。 1 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 2 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 3 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 4 障害者基本法 5 障害者の雇用の促進等に関する法律	34
	問題 74 次のうち、2006 年に国連総会で採択され、2014 年(平成 26 年)に日本が批准したものとして、正しいものを1つ選びなさい。 1 精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則 2 障害者の権利に関する条約 3 世界人権宣言 4 国際人権規約 5 障害者の権利宣言	2

	問題 75 包括型地域生活支援プログラム(ACT)に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。 1 24時間365日体制の支援を行う。 2 スタッフ一人に対して、担当する利用者は30人以下が最適とされている。 3 多職種で構成されるチームアプローチで行う。 4 通所型の支援システムである。 5 支援対象は、軽度の精神障害者である。	13
	問題 76 Gさんは、R市にあるグループ活動を紹介され、利用するようになった。この活動は、全ての活動内容や運営をメンバーとスタッフの協働で決定・実行するなど、メンバーとスタッフが対等な関係にあり、国際基準の認証を受けて運営されている。イラストが得意なGさんは、この活動を紹介する会報作りに参加するようになった。Gさんの温かみのあるイラストは、メンバーとスタッフだけでなく、会報を読んだ地域住民からも好評である。Gさんは、この活動を通して自信が付き、自らに社会的役割があることを実感している。 次のうち、このグループ活動として、適切なものを1つ選びなさい。 1 I P S (Individual Placement and Support)モデル 2 ピープルファースト運動 3 自立生活センター 4 ソーシャルファーム 5 クラブハウスモデル	5
	問題 77 次のうち、都道府県に設置義務がある精神障害者を支援する機関等として、正しいものを1つ選びなさい。 1 基幹相談支援センター 2 精神保健福祉センター 3 自立更生促進センター 4 障害者職業総合センター 5 高次脳機能障害情報・支援センター	2

(精神障害者の生活支援システム・事例問題)	(精神障害者の生活支援システム・事例問題) 次の事例を読んで、問題 78 から問題 80 までについて答えなさい。 〔事 例〕 H さん(50 歳, 男性)は, 統合失調症の診断を受けており, 4 年前に V 精神科病院に 3 回目の入院をした。入院前, 母親と二人暮らしをしていたが, 入院して間もない頃, 母親は病死した。H さんの病状は安定しており, V 精神科病院の J 精神保健福祉士は, 何度か H さんに退院の話を持ち掛けたが, 当初は H さんは関心がない様子だった。 ある日, H さんは, J 精神保健福祉士に勧められて, 「退院者の集い」に参加し, 来院した一人暮らしをしている K さんと出会った。K さんが生き生きと語る地域生活の体験談に強く興味をひかれた H さんは, J 精神保健福祉士に, 自分も退院して一人暮らしがしてみたいと相談した。 その後, H さんの主治医などとも話し合いを重ね, 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく手続を行い, 地域移行支援の利用が決定した。W 機関の職員である L さん(相談支援専門員, 精神保健福祉士)は, H さんの希望を聞き, 体験宿泊での一人暮らしの練習や事業所の見学などを盛り込んだ地域移行支援計画案を作成した。(問題 78) 宿泊体験などを通して, H さんは, 一人暮らしに関する具体的なイメージが持てるようになった。一人暮らしへの準備は順調に進んでいたが, 貴重品の管理だけは, H さんにとって心配の種だった。通院などで外出している間も, 置いてきた生活費や通帳, 印鑑が盗まれないか不安になり, 外出時に持参しても, 確かに持っているのか何度も確認しなければならず, 気が休まらなかった。H さんから, 信頼できる人に貴重品を預けたいと相談を受けた L さんは, H さんに対応する事業を紹介した。(問題 79) H さんは, 一人暮らしが落ち着いた後, 無理のない範囲で働きたいと思うようになった。H さんは, 見学した事業所の中でも X 事業所の運営する喫茶店が気になっていた。雇用契約を結ばず最低賃金が保障されないのは残念だが, 期間の定めもなく, 体調に応じて柔軟に働けるところに魅力を感じていた。(問題 80)
------------------------------	---

	問題 78 次のうち、この計画案を作成するW機関として、正しいものを1つ選びなさい。 1 市町村虐待防止センター 2 自立相談支援機関 3 指定居宅介護支援事業所 4 指定特定相談支援事業所 5 指定一般相談支援事業所	
	問題 79 次のうち、Lさんが紹介した事業として、正しいものを1つ選びなさい。 1 日常生活自立支援事業 2 自発的活動支援事業 3 生活福祉資金貸付事業 4 家計相談支援事業 5 移動支援事業	1
	問題 80 次のうち、Hさんが気になったX事業所の事業として、正しいものを1つ選びなさい。 1 地域障害者就労支援事業 2 地域生活定着促進事業 3 就労継続支援事業(A型) 4 就労継続支援事業(B型) 5 就労移行支援事業	4